

# Oita Pco Letter



## Why are you here?

### 空士長の場合

「航空自衛隊」と言えば、やはりパイロットを思い浮かべる人が多いだろう。しかし、どんなに高性能の航空機も、どんなに熟練したパイロットでも、設備や滑走路無くして十分な活躍は出来まい。そういった施設の維持、整備をしているのが「施設隊」である。目立つ華やかな職種ではないかもしれないが、彼らの力なくして「航空自衛隊」は成り立たない。その「施設隊」の中で、重機を自在に操り活躍している若き女性隊員がいる。彼女は「緑の下の力持ち」である「施設隊」の中で、どう働いているのか。また、どのような切っ掛けで自衛隊を目指したのか。



## 僕らがここに立つ理由

### 榎原 愛歩 ならはら あゆみ

私が自衛隊に興味を持つようになったきっかけは、『空飛ぶ広報室』というドラマでした。航空自衛隊の広報室を舞台に、不慮の事故からパイロット資格を失った空自広報室へ転属となった空自隊員と、不本意な異動によって広報室の取材をすることになるテレビディレクター、人生の壁にぶつかった2人が互いに理解を深めていくというストーリーです。当時中学生だった私は、毎週このドラマを楽しみとしており、放送時間になるとテレビの前で正座して見入っていました。私の兄も自衛官だったので、影響はこのドラマの方が大きかったと思います(笑)。

このドラマの中では、「東日本大震災」の実際の災害映像も使用されています。そういった場面を見て私も、災害の話は他人事ではないな、と思っていました。

2017年、「平成29年7月九州北部豪雨」が発生し、豪雨、洪水災害で母の実家がある日田市が大きな被害を受けました。祖母宅も浸水し、家具全般も泥に覆われ、とても修復できるものではなく、家は取り壊すことになりました。突如として住む場所も思い出の品々も失ってしまった祖母の悲しい表情は、今でも忘れられません。その時に、災害派遣に来た自衛官の姿を見て、大きな憧れを抱くと同時に、「私もこういう時に誰かの役に立ちたい」という気持ちも強く抱きました。ドラマをきっかけに抱いた興味。当たり前に前だと思っていた日常が失われる現実と、そこに駆けてくれた隊員の姿を見て生まれた想い。その時に自分の中で何かが繋がったのかもしれない。私も兄と同じ道、自衛官を目指すことを決めました。

## Why are you here?

### Ayumi Narahara 榎原 愛歩 空士長

第8航空団基地業務群施設隊土木建築小隊  
※記載している情報は全て取材時のものです。

航空自衛隊は日本の空を守る唯一の組織です。24時間365日、日本の領空を守るために常に備え見守っています。また、柔軟性、多様性を活かし、災害派遣の現場で人命救助、物資の輸送、給食、給水、入浴など、様々な支援活動も行います。レアなところでは「特別輸送機」、いわゆる政府専用機の運航に関わる要員も、いわゆる航空自衛官です。航空自衛隊には、こういった多種多様な仕事があります！

その中で私は現在、航空自衛隊築城基地にある第8航空団基地業務群施設隊土木建築小隊で「土木建築員」として任務に就いています。航空機、滑走路、航空警戒監視に必要な「建物」、それらをつなぐ「道路」、また、基地全体を守るための「柵」などの維持補修をしています。大型のブルドーザや油圧ショベルなどの重機に乗り、アスファルトやコンクリートを舗装する規模の大きな工事も自分たちで行います。また、降雪地の基地では、除雪車に乗って基地内の除雪もしています。このような仕事をするためにトラックやダンパーなどの重機を使用しますが、それらを運転するために、資格を取得することができ、半年ぐらいで大型特殊の免許を取りました。最初は「こんな運転できるのかな」と思っていました。5種類の特殊車両を乗りこなせるようになりました。

様々なスキルを身に付け、幅広い経験ができるというのが「土木建築員」の魅力だと思います。



## 陸・海・空 自衛官募集

大分地本



自衛隊での訓練は確かに厳しいですが、その分終わった後には達成感があります。指導してくれる助教の方々も丁寧に教えてくれますし、ふとした時に振り返って、一年前の自分と現在の自分を比べてみると、やっぱり精神面でも体力面でも成長を感じることが出来ます。

部隊の中では自分の時間が取れず、忙しく厳しいというイメージを持つている方も多くありませんが、ちゃんと余暇の時間もありますよ。課業時間後に勉強をして、資格を取得する人もいます。私の場合は、同期とトークしたり、ランニングなどで身体を動かしています。休日には外出して、ご飯に行ったり、映画を見に行ったり。集団生活に不慣れな人も多いと思いま

すが、だいたい皆そうです。慣れていく人の方が少ないです。ですが一ヶ月もあれば慣れます！これはもう、私自身も経験しているのだからです！毎日3食、しっかり食べることで、体づくりのため運動は欠かさず行って、消灯時間が決まっているから無駄に夜更かしも出来ないし、「健康的な生活」のモデルケースの様な生活じゃないでしょうか。

自分が将来何をやりたいか、まだ何も見つかっていない人もいるかもしれませんが、人生は長いので、何も見つかっていない人だとしても、明日でもその何かと出会えるかもしれない。その時に、自分を磨いてきた人と、特に何も意識せずに過ごしてきた人で

は、助走距離も選択肢の数も違ってくると思います。進路を意識する時期になると、いろいろと忙しくなってバタバタすると思いますが、焦らず、自分の心の声に耳を傾けながら、選択肢を多くできるようにシッカリと日々を積み重ねてください。自分の長所を伸ばすのも良いですし、短所を補うのも良いです。私自身は苦手部分を克服出来たら達成感があるので、そういう道を選んで「何苦礎(なんくそ)根性」で乗り切っています！「平成29年7月九州北部豪雨」、あの災害の日を経て抱いた想い。その想いに負けぬよう、その想いに近付けるように、これからも頑張ります！

## 私の母校 大分県立三重総合高等学校

私の母校、三重総合高校は2006年に開設した大分県初の総合選択制高校です。校舎は木製で、とてもぬくもりを感じさせてくれます。管理棟と生徒棟を繋ぐ「さんさんロード」は、県内で一番長い廊下だそうです！毎春秋に行われる「補習祭」は生徒一同が一丸となって大いに盛り上がりです。

生物環境科では、旬の野菜や、肉、果物、ジャムなどの製作、加工、販売も行っています。大根が本場に大きくて、冬場には鍋料理に最適です。

そして三重総合といえば、演劇部です。この演劇部に勝る部活はないのでは？と思える程、魅力的で誇らしい部です。公演を見たいとがなれない人にも、ぜひ一度は見ていただきたいです。高校生の演技とは思えないほどのレベルが高いです。感動しますよ！ちなみに先ほど話した「何苦礎(なんくそ)根性」という言葉は、剣道部の顧問をやっていた、私の担任の先生が、よく使っていた言葉です。

私が所属していたバスケットボール部は、個性豊かなメンバーが揃い、仲が良く、明るい部でした。練習や試合後に、メンバーみんなでご飯に行ったり夏場は水鉄砲で涼んだり。すごく懐かしいです。ほんと青春を謳歌しました。いや、今も青春です！

こういった感じで私の母校は、言いだしたらキリがないほど、とても魅力的で素敵な学校です！